

にとって、いかに市場の活力を最大限に生かしながらその欠陥を補うような介入を行うか、ということが最大の課題であると考えられる。

第三に、農村経済の発展と農業や非農業部門の発達により、農信社の地域性が主に四つの典型的な類型として現れてきた。これに伴って、農信社の合併や分社化といった経営構造を変化させる省がみられ、また、規模の拡大による金融新商品の開発や協同組合的な経営を促進するための改革を行う省も現れた。さらに、農信社の預貸金規模、資産の安定性や流動性などについても地域的な格差が見られるようになり、政府が「画一的な協同組合化政策」を実施することから「各地域の特徴に適応した政策」へと改革したことにより、農信社の地域的な格差は一層拡大された。そうすることにより、今後農信社の協同組合化改革が維持できる地域とそうでない地域が現れてくることが予想できる。

第四に、以上、農信社協同組合化改革の展開を政策的、金融機能的、地域的といった三つの側面から理論考察に基づいて行われた実態面からの考察結果を見ると、以下のことが明らかになった。①吉林省のような農業発展地域において、農信社自らの協同組合的経営改革により、組合員である農家は徐々に農信社が自分の銀行であることを認めて、それを利用するようになり、その結果、農信社自らの不良債権が改善され、農業構造の調整に対応する農村金融としての役割を果たすようになった。②天津のような大都市近郊の農信社において、その名前が協同組合組織と示されているものの、実際にそうでないように機能化していることが最大の問題である。それをもたらした要因はそれら地域の資金需要が都市部とは変わらないことである。そうした特徴に従い、これら地域における農信社の改革に対して、それを協同組合金融機関への復帰を求めるといった協同組合化改革より、都市部のその他の金融機関と競争が厳しい環境の中でいかに効率的に発展していくかといった方向を探ることは何より重要であることがわかった。③江蘇省や浙江省といった沿岸部経済発展地域において、都市化と工業化がともに進展している中で、資金需要の大口化と多様化そして金融サービス需要の多様化に応じて、農信社の協同組合化改革は維持できないためそれをやめて株式会社制度にする試みと、農信社の協同組合化改革をさらに発展させるためそれを株式合作制度にする試みが行われている。つまり、江蘇省と浙江省の実態からみると、農信社の協同組合化改革はこれから新しい展開過程を迎えるとともに、それが一部の地域において、崩壊する現実に直面していることがわかった。④貧困地域はその他の地域と比べれば、その自然条件、経済発展条件において優位性を持たないため、農業・農村政策が不可欠であるとともに、政策金融の果たす役割も重要である。そのため、貧困地域の農信社にとって、吉林省など農業発展地域、天津など都市近郊地域、さらに江蘇省など経済発展地域とは異なる改革形態が出てくることが予想できる。この新しい形態とは、いかに農信社の協同組合性格を維持させながら、政策金融的な特徴を取り入れるかといった点にあると思う。そのために、貧困地域における一部の維持できない農信社を政策銀行へ改組させることも考えられるし、陝西省安康市農信社連合社のような運営が良好な農信社にとっては、今後その協同組合制の維持を強調することも重要であろう。

論文審査の結果の要旨

本論文は、1980年代初め頃から現在にかけての農信社協同組合化改革の展開を分析対象とし、その展開要因と展開の特徴と課題を「中国型協同組合金融機能論」的な方法により政策的、地域的、金融機能的といった三つの方面から分析してきたが、その結果を要約すると以下のとおりである。

第一に、農信社の協同組合化改革はまずなにより政府の協同組合化政策により推し進められてきた

ことが明らかになった。こうした協同組合化政策は国の経済体制の変化、政府の協同組合制度に対する理解の深まりにより徐々に発展してきており、その実施において、政府はそれを全国画一的な方式から各地域の格差を考慮したうえで方式で展開させようとした。しかし、協同組合組織に対する法律上の未整備、組合員の無関心、農信社の経営実態との不適合による関係者からの反発などの原因により、協同組合化政策の実施は順調ではなかった。さらに、農信社における株式会社制度および株式合作制度といった新しいモデルの試行により、政府はこのような協同組合化政策を一方でさらに推進させようという方向、他方ではそれとは逆に協同組合化解消政策という方向へと展開させようとしている。

第二に、改革開放以来、農信社における貯蓄と貸付は徐々に増加し、農信社は農家の零細な貯蓄を動員し、農家・農業への小額な貸付を提供するのにもっとも重要な農村金融組織として、その貯蓄動員と貸付の機能を果たしている。この機能の拡大とともに、農信社が徐々に農銀から独立し、独自の協同組合組織として発足することができた。しかし、農信社における決済サービスの不十分性とインフラの未整備がその取引費用の増大をもたらし、他の金融機関と比べて農信社の金融機関としての効率性は低くなった。それを解決するために、農信社の「地縁性」と「血縁性」を利用し、コストダウンを下げることが目的とする協同組合化改革が推し進めてきたが、これが展開する中で、農信社が金融機関として、持続可能な金融サービスを提供するための組織形態と経営効率の向上機能が徐々に求められるようになった。そのため、政府は農信社の位置づけを「協同組合組織」であることから、ひとつの金融機関としてその金融仲介機能の農村経済発展への貢献が重要であることを強調し、農信社の位置づけを「地域的な金融組織」であるように変えた。今後、政府にとっていかに市場の活力を最大限に生かしながらその欠陥を補うような介入を行うかということが最大の課題であると考えられる。

第三に、農村経済の発展と農業や非農業部門の発達により、農信社の地域性が主に四つの典型的な類型として現れてきた。これに伴って、農信社の合併や分社化といった経営構造を変化させる省がみられ、また、規模の拡大による金融新商品の開発や協同組合的な経営を促進するための改革を行う省も現れた。さらに、農信社の預貸金規模、資産の安定性や流動性などについても地域的な格差が見られるようになり、政府が「画一的な協同組合化政策」を実施することから「各地域の特徴に適応した政策」へと改革したことにより、農信社の地域的な格差は一層拡大された。そうすることにより今後農信社の協同組合化改革が維持できる地域とそうでない地域が現れてくることが予想できる。

第四に、以上、農信社協同組合化改革の展開を三つの側面から理論考察に基づいて行われた実態面からの考察結果を見ると、以下のことが明らかになった。①吉林省のような農業発展地域において、農信社自らの協同組合的経営改革により、組合員である農家は徐々に農信社が自分の銀行であることを認めてそれを利用するようになり、その結果、農信社自らの不良債権が改善され農業構造の調整に対応する農村金融としての役割を果たすようになった。②天津のような大都市近郊の農信社において、その名前が協同組合組織と示されているものの実際にそうでないように機能化していることが最大の問題である。それをもたらした要因はそれら地域の資金需要が都市部とは変わらないことである。そうした特徴に従い、これら地域における農信社の改革に対して、それを協同組合金融機関への復帰を求めるといった協同組合化改革より、都市部のその他の金融機関と競争が厳しい環境の中でいかに効率的に発展していくかといった方向を探ることは何より重要であることがわかった。③江蘇省や浙江省といった沿岸部経済発展地域において、都市化と工業化がともに進展している中で資金需要の大口化と多様化そして金融サービス需要の多様化に促されて、農信社の協同組合化改革は維持できないためそれをやめて株式会社制度にする試みと農信社の協同組合化改革をさらに発展させるためそれを株式合作制度にする試みが行われている。つまり、江蘇省と浙江省の実態からみると農信社の協同組合化改革はこれから新しい展開過程を迎えるとともにそれが一部の地域において崩壊する現実に直面して

いることがわかった。④貧困地域はその他の地域と比べれば、その自然条件、経済発展条件において優位性を持たないため農業・農村政策が不可欠であるとともに政策金融の果たす役割も重要である。そのため、貧困地域の農信社にとって、吉林省など農業発展地域、天津など都市近郊地域、さらに江蘇省など経済発展地域とは異なる改革形態が出てくることが予想できる。この新しい形態とは、いかに農信社の協同組合性格を維持させながら政策金融的な特徴を取り入れるかといった点にあると思う。そのために、貧困地域における一部の維持できない農信社を政策銀行へ改組させることも考えられるし、陝西省安康市農信社連合社のような運営が良好な農信社にとっては、今後その協同組合制の維持を強調することも重要であろう。

以上、本論文は、学術的価値を十分持ち、学位論文として価値を有するものである。